

《모든것을 아이들의 성장과 행복을 위하여》福岡朝鮮初級学校

～すべては子ども達の幸せと成長のために～

후쿠오카조선초급학교



寒さなんてへっちゃら！学区ユチウオン合同運動会や消防署見学



待ちに待った体育の特別授業！～スケート教室～



ウリハッキョを温かく包むサポーターズ

「福岡地区朝鮮学校を支援する会」には、2015年スタート時から、運営委員として関わってきました。そのきっかけとなったのが、2009年12月4日に起こった、在特会（在日朝鮮人の特権を許さない市民の会）による京都朝鮮学校への「襲撃」事件でした。白昼堂々と在日朝鮮人排撃を公然と掲げて市街を練り歩くレイシストたちの登場は、ある意味では私たち日本人が、戦後70年をかけて作り上げてきた「許してしまった！！」現実であることを認識することから出発するべきだと思います。敗戦後、新たに出発した日本は、焦土と化した焼け跡の前で、どんな社会を目指したのかを今一度思い起こしたいと思います。ヘイトスピーチも高校無償化除外も、朝鮮学校への補助金カットも本質は同じ問題です。朝鮮学校を「北朝鮮・拉致」という言葉で関連付ければ、差別も排除も迫害も許される。こんな社会を目指したわけではないはず。「日本型ヘイトスピーチとは何か」を著した梁英聖（リャン・ヨンソン）さんはこうした事態を「社会を破壊するレイシズムの登場」として分析してましたが、まさしく、「差別」は社会を壊します。高校無償化からの朝鮮学校除外、そして補助金廃止という問題は単なるお金の問題ではありません。日本という国と各自治体が、当然保障すべき民族教育を行う権利を侵害しているというあからさまな差別であり、尊厳の問題です。壊されていく社会に衝撃を受け、これに抗すべく結成された「福岡地区朝鮮学校を支援する会」も今年で10年目を迎えます。この間、朝鮮学校を取り巻く環境は、全国的規模で闘われた「無償化裁判闘争」敗訴を始め依然として厳しいものがあります。しかし私たちは負けません。闘い続けなければ負けないからです。必ず、仲間は増え、偏見のない寛容な社会が実現すると確信してます。そして、この不屈の精神は、朝鮮学校との「交流」と「共闘」を通して、私たち日本人に伝えてくれたものではないでしょうか。「在日」の運動が、日本社会の運動にならなければなりません。「朝鮮人の運動」ではなく「日本人の運動」でもなく、「ここに住む者たちの運動」として展開していく先に、確かな未来を展望できると思います。

藤岡正明

九州朝高学区口演大会



ぼくたち、わたしたち小さな音楽隊～低学年音楽会～



インプット、アウトプット 鉄壁の講師陣 本は心の栄養～読書感想会～



福岡ハッキョ支援一口千円募金運動 月額1000口を目標に卒業生、同胞と世界に向け支援を呼びかけております。一人の100万円は大切、千人の1000口は素晴らしい。宜しくお願いします。

